

第76回病診連携委員会要録

日 時 平成28年7月25日(月) 午後7時45分

場 所 浪速区医師会 会議室

出席者 浪速区医師会 6名

南医師会 1名

愛染橋病院 2名

育和会記念病院 2名

NTT西日本大阪病院 1名

大野記念病院 2名

思温病院 1名

四天王寺病院 1名

多根総合病院 1名

富永病院 2名

なにわ生野病院 1名

日生病院 1名

大阪市消防局 1名

地域包括支援センター 1名

浪速区医師会事務局 1名

製品説明 大日本住友製薬株式会社

今回は大阪市消防局よりお越しいただき、小児救急支援アプリの説明を始め、救急医療の現状についてご報告をいただいた。

議 題

1. 第75回病診連携委員会報告について

前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。

2. 大阪市消防局からの報告について(別紙)

救急搬送の拒否率について、話に先立ち、各病院での現状について聞いてみた。

基本断ることが無いようにはしているものの、今すぐの診療が難しいケースなどは、救急依頼後、のちほど電話をしていただく様に断るケースは多々あるとのこと。また病院によっては、拒否率を一定期間で抽出して、院内で検討する施設もあるとのこと。印象として6割から7割ぐらいいは取っているという施設もあり、全国平均とほぼ変わらないとのことであった。

松田さんからは、小児救急アプリについて紹介がなされた。大阪府内全域を対象としたアプリであり、年齢、性別を入力後、病気の分類をしてゆき緊急性の有無が判別できるというすぐれものである。最終的には近くの医療機関の紹介も可能であるが、大阪府内に限っているため、他地区での使用はこの限りでは無い。また救急安心センター(7119)へ連絡することも可能である。このアプリの目的でもあるが、大半が救急受診までいかず、自己で判断することが出来る疾患が多いため、無用の受診が軽減することが可能である。後々、このアプリの大人版が出来ることを目標としているものの現状としては難しいとのこと。

3. 本会の在宅医療連携の現状について

浪速区との共同企画である『えーケアカード』も含め、今後も地域の医療機関、看護施設などとも連携を取りながら進めていくことを確認した。

4. その他

(1) ブルーカードの登録件数

登録件数 合計615件、浪速区内の医師より561件、他地区の医師から54件

使用状況件数(のべ) 全例で565件、浪速区533件、他地区で32件

6月1日からの2カ月でカード動向69件

新規19件、入院5件、受け入れ不可が1件

次回会議予定 平成28年9月26日(月) 午後7時45分～